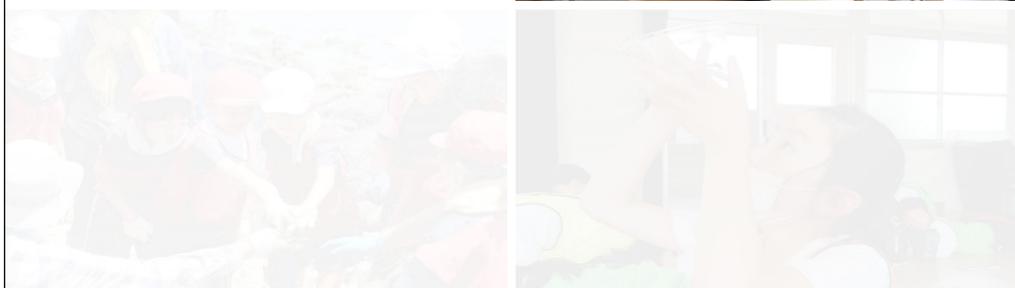


# 三河湾を支える将来世代の育成



蒲郡市教育委員会生涯学習課  
杉浦 崇文

# はじめに



がまごおり  
**蒲郡市**

## 三河湾環境チャレンジ(海の世界学習)

## 三河湾環境チャレンジの目的

- 地元の**海に親しみ**、そこに生息する**生き物と触れ合う**機会にする。
- 生き物の特徴や生き物が生息する環境などを学び、海の生き物や地元蒲郡の海への**興味・関心を高め**、海の環境に関する**問題意識を醸成**する。

### 参加小学校

20年目**市内全13小学校**実施!

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
竹島	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
三谷		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
西浦			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
大塚																				
西部																				
三谷東																				
形原																				
塩津																				
中央																				
南部																				
北部														○	○		○	○	○	○
形原北														○	○	○	○	○	○	○
東部																	○	○	○	○

**運営体制の見直し・再構築**

- 令和4年度から、**学校が主体**となって活動できるように。
- 令和5年度から、**市内全13小学校**が実施できるように。

※コロナ禍「オンライン海の世界学習」

# 三河湾環境チャレンジ

## ～海に触れ、海を知る～

令和6年度4年生606人参加  
5・6月に実施

## 準備段階

事務局は、各学校の担当教員を支援する

- ・事前説明会を実施(三河湾環境チャレンジの意義や活動内容、安全指導等の説明)。
- ・竹島でフィールドワークの**実地研修**。
- ・担当教員が自分で事前学習を行えるように**研修の場**を設け、**資料も提供**。
- ・適宜**プログラム・細案の作成支援**。など

各学校の担当教員

- ・準備から実施後まで、全体の流れをつかむ
- ・ねらいや活動意欲の喚起の仕方等を考える

※単に「三河湾環境チャレンジをやるよ」ではない。

## 事前学習 (各学校が実施する)

「海・生き物」への意識を掘り起こす

- ・竹島水族館の見学 (遠足)
- ・国語教材「ヤドカリとイソギンチャク」
- ・道徳資料 (自然愛護に関すること)
- ・地元の海岸を散策。など

「海に行きたい」「生き物をつかまえたい」

↓ 三河湾環境チャレンジに出あわせる

「やりたい!」「〇〇を見つけない!」と、  
三河湾環境チャレンジへの興味・関心をもつ

↓  
生き物調べ ※学校とつながりのある講師を招く学校も。

## フィールドワーク～始めの会～

進行役は子どもたち



# フィールドワークの活動場所



【竹島】



【三谷温泉海岸】



【くじ港】



【春日浦海岸】



【大塚海浜緑地】

※学校付近の  
海で活動。

# フィールドワーク～磯の観察・生き物採取～



各班（児童15名程度）、講師と教員、サポートボランティア（保護者や地域の方）の協力・連携のもと、子どもたちが安心・安全に活動。



# 講師

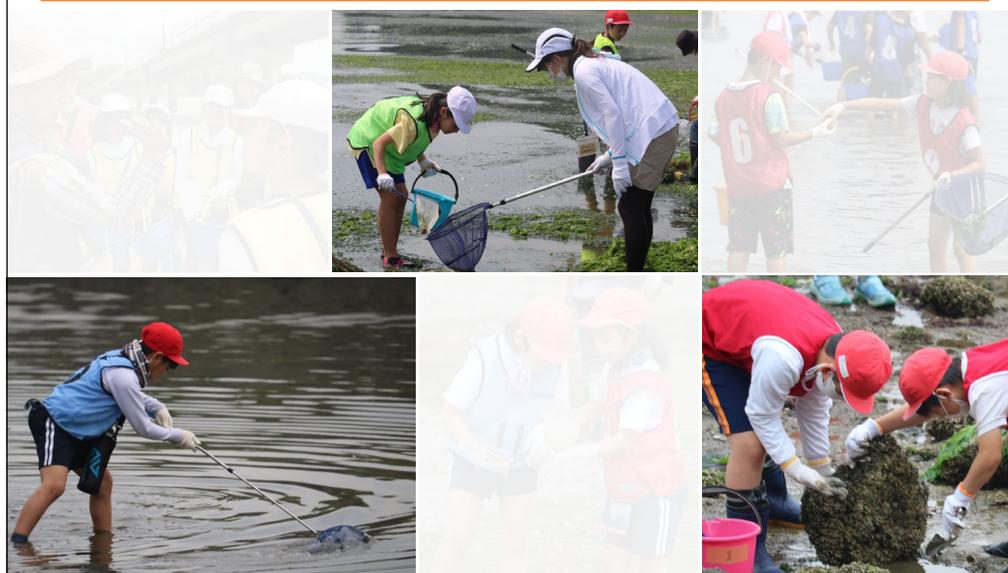
蒲郡市生命の海科学館、愛知県水産試験場  
蒲郡市竹島水族館、LOVEARTH、蒲郡ビーチクリーン  
グリーンフロント研究所株式会社  
ビオトープ・ネットワーク中部  
NPO法人 シーブリーズ三河湾  
NPO法人 東三河自然観察会  
一般社団法人 Clear Water Project  
一般社団法人 加太・友ヶ島環境戦略研究会  
鈴木ダイビングサービス、大阪公立大学  
長野アカモズ保全研究グループ

## 協力機関

蒲郡市教育委員会生涯学習課・学校教育課、農林水産課  
蒲郡市小中学校長会、蒲郡漁業協同組合、三谷漁業協同組合  
ラグーナビーチ共同事業体

# フィールドワーク～磯の観察・生き物採取～

目を輝かせ、生き生きと活動する子どもたち



潮だまりや岩場、砂浜、アマモ場

# フィールドワーク～終わりの会～

## 子どもたちによる進行



感想交流



## アサリの浄化実験



講師の話



# 三河湾環境チャレンジのまとめ (各学校が実施する)

## お気に入りの1匹を持ち帰って観察・スケッチ



# ぼく・わたしだけの海の生き物図鑑



◆ スケッチしてみよう!

◆ 生き物の名前  
コブユコバサミ

◆ つかまえた場所(環境)  
海の岩の中

◆ 生き物の特徴  
大きさ・横8cm たて7cm 5mm  
口みたいところが動いている  
はごみやあしは毛がたくさんある

◆ 今日、海に行ってきたこと・気づいたこと・考えたことなど  
海には生き物がたくさんいることがわかりました。次海に行ったら生き物がいたら、かんさつしたいです。



◆ スケッチしてみよう!

◆ 生き物の名前  
スガイ(のよにたがの目があいてくっつくもぜんぜんとけない)

◆ つかまえた場所(環境)  
岩場にくっついてた。

◆ 生き物の特徴  
ねんろう力が強い。  
すみこにいつまよっている。

◆ 今日、海に行ってきたこと・気づいたこと・考えたことなど  
竹島にはいがいといがい海の生物がいることを始めて知りました。しあがりのじきはこんなに水が少なかつたとは知りませんでした。

# 写真を使って



【お気に入りの生き物】  
○ 生き物の名前  
イナギニ

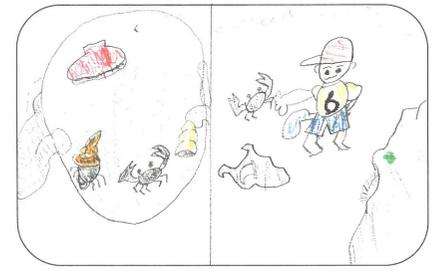
○ 見つけた場所  
岩がぬれぬれした場所

○ とくちょうなど  
夏にはまよつかぶり、白色が海にまよっている目かはなれている。

感想やわかったこと、心にこたえたことを書きましよう。

今日環境チャレンジを行って心にこたえた事か2つあります。1つ目は海岸で色々な生き物は出会ったことでもわたしはアサリかごかせなつたアサリとほかにアサリはえひひ、無しかもつかまえてすごいなと思いました。2つ目は写真で生き物だとしたことで生き物とおかわれるのはさびかたにアサリと他の生き物に会えてうれしかったです。それに今までアサリはアサリではないけれど、海でアサリが出た時には海に泳いでいる生き物や自分がやられたらどうしよう...というとも考えて海岸にゴミをすてないように気が付きました。

# 絵日記



はじめでの環境チャレンジは楽しかたでもなぜかという、海の生き物もたくさんいて、ゴミも少なかつたからでははじめの方は生き物を見るだけでぶるぶるええました。でもだんだんなれてきて生き物にさわることもできました。ゴミの少ない三谷温泉海岸はすてきな場所でした。おつかい合いです。

## 国語の学習と関連づけて

### 新聞形式

### リーフレット

新聞形式の学習成果。写真、イラスト、手書きの文字が組み合わさった新聞のレイアウト。リーフレットには「マメコブシガニの生たい！」というテーマがあり、大集合!、作絵、などという見出しや、海で魚をさがしている時に、大きな魚を見つけたら、小さな魚を捕まえて、観察しようという内容が書かれています。また、マメコブシガニのイラストや、魚のイラストも描かれています。

## 室内プログラム「海の専門家に学ぶ」

海ごみ、竹島の磯で見られる生き物、アサリの浄化実験、干潟の学習など。



## 室内プログラム「チリメンモンスターを探そう！」

チリメンジャコの中に混ざっている海にすむ魚や生き物のこどもなど、小さな生き物たちを種類ごとに分ける



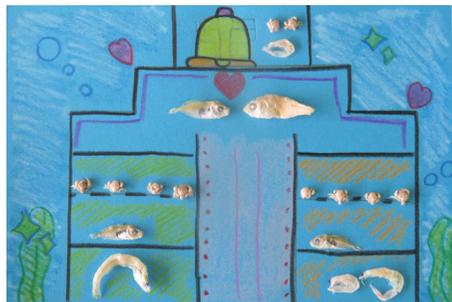
## 室内プログラム「チリモン水族館づくり」

見つけたチリモンをつかって、海・水そうを泳ぐチリモンをイメージして作品をつくる





【海に魚のバラがあるよ】



【魚の結婚式】



【タツノオトシゴのパーティー】



【きれいな海の中】

## 三河湾環境チャレンジの成果

(1) 児童アンケート (606人回答)

Q1: 感想を聞かせてください。

「楽しかった」 **95%** 「ふつう」 4.5%

「つまらなかった」 0.5%

Q2: 海を知ることができましたか。

「よくできた」 **64%** 「できた」 **33%**

「どちらともいえない」 3%

Q3: 海のどんなところに興味をもちましたか。

- ・海にはたくさんの生き物がいること。
- ・アサリなど生き物が海をきれいにしていること。
- ・海は自然いっぱい気持ちがいいこと。
- ・海にはたくさんの不思議があること。

## 三河湾環境チャレンジの成果

Q4: 自由記述 (思ったこと・考えたことなど)

- ・思ったよりいろいろな種類の海の生き物がいて、おもしろかったです。ずっとずっと、かわいい生き物がくらしていける海を守っていきたいです。

地域の海への関心・自然愛護

- ・海に行ったら、いろいろな生き物がたくさんいて海にはたくさんの命があるから大切にしたい。

生命の尊重

(2) 学校・講師・サポートボランティア

- ・子どもたちにとって非常に魅力的で、意義のある活動だと再認識できた。
- ・子どもたちは目を輝かせて話を聞いたり、夢中になって取り組んだりしていた。

## 三河湾環境チャレンジを生かした探究的な学習の展開

- ・マイクロプラスチック、SDGs、地球温暖化、海の生き物などの学習。
- ※三河湾環境チャレンジの講師をゲストティーチャーとして招く学校もある。
- ・海岸に出かけて清掃活動を実施。
- ・全校や家庭、地域に学びの成果を発信。
- ・社会科「水の学習」。

事務局は、各学校の実践を収集・累積し、次年度の担当教員に資料提供。

## 三河湾環境チャレンジ作品展示会

蒲郡市生命の海科学館で開催（夏休み期間中）



各学校の三河湾環境チャレンジの成果物や写真を  
市内外、県外の大勢の人たちに広く発信。

## 三河湾環境チャレンジ作品展示会を見た人の感想

すごくおもしろいざつがくがあったので、たのしかったです。  
べんきょうになりました。（東京都10歳女子）

海の町ならではの貴重な体験ができて素敵だなと思いました。  
子どもたちの絵や発見が**しっかり観察されていて驚きました**。  
（蒲郡市30代女性）

身近に生き物と触れ合えるところがあるのはうらやましいです。  
みんな楽しそうでいい笑顔しています。  
（名古屋市40代男性）

蒲郡の子どもたちが蒲郡（自分の生まれ育った地）を大切に  
している、興味をもってすごしていることが伝わってきました。  
「**郷土を想う**」素敵な試みですね。  
（静岡県60代女性）

## 感想を子どもたちへフィードバック

- 海の生き物について知ってもらえたことがうれしかった。
- 海をみんなで守っていこうと書かれていて、**やってよかった**と思えた。
- 蒲郡や違う地域のいろいろな人たちが見てくれたと思うと**うれしい**。
- 自分たちの絵を褒めてもらえてうれしい。
- 環境チャレンジをしていない人たちにも**竹島の海の魅力が伝わった**と思うと**うれしい**。

子どもたちは、**多くの人に知ってもらえたこと**や、**思いが伝わったこと**を大変喜んでいました。

## 終わりに

- 三河湾環境チャレンジは20年継続している。
- 地域の海洋教育資源（蒲郡市生命の海科学館・竹島水族館・愛知県水産試験場・地元NPO・企業等の講師、多様な海域）をうまく活用し、学校が主体となって活動できるように工夫しながら運営している。
- 近年、環境学習に繋がったり、教科横断的に学習したりする学校が増えるなど、各校、特色のある教育活動（総合的な学習の時間）になってきている。

## 今後の展望と課題

- ・人が入れ替わっても、活動の質を保ち、30年、40年と活動が長く続いていく。
- ・三河湾環境チャレンジやそれを生かした学習が各校に定着し、蒲郡だからこそできる特色ある教育活動（総合的な学習の時間）が確立する。
- ・子どもたちが海や環境問題に関心を持ち続け自分にできることをする。将来、大人になったとき、自分の子どもを海に連れていく。
- ・予算(助成金)を確保し、安定した運営体制に。
- ・講師の確保と育成。
- ・担当者（教員・事務局）の負担軽減。

ご清聴ありがとうございました